

# カルメル 霊性センターニュース



復活のキリスト像 (宇治カルメル会修道院)

2018年4月

341号



## 目次

目次	1
心の泉	3
カルメル会の企画案内	23
東京	24
京都	26
北陸	30
諸所の企画案内	31
郵送お申込みのご案内	42
編集後記	43



宇治カルメル会修道院 入口（梅花）

# 心の泉





### 第三卷

#### 第十章 この世を捨てた者にとって、神に奉仕することは喜び

##### 2 あなたは私を愛した

これほどの恵みに対して、私は何をお返ししましょう？すべてを捨ててこの世を離れ、修道生活に入ることは、皆にゆるされることではないのです。被造物は皆、あなたに仕えるべきなのですから、私<sup>が</sup>あなたに仕えることがどうして大変なことだと言えるのでしょうか？いや、あなたに仕えることを、自分で大したことだと思っ<sup>て</sup>はなりません。むしろあなたが、このような貧しい、ふつつかな私をしもべとして受け入れ、愛する子のひとりに加えてくださったことこそ、すばらしいこと、驚くべきことだと思わなければなりません。

##### 3 人間のしもべ

主よ、ごらんください。「私が持っているもの、あなたに奉仕するためのものは、すべてあなたのものです」(歴代上 29・14)。しかし、実は、私<sup>が</sup>あなたに仕えるよりも、あなたが私に仕えてくださるのです。あなたが人間のために造られた天地は、人間に仕える備えをし、毎日あなたの命令のままに動いています。しかし、それでもなお小さなことです、あなたは天使にさえも、人間に仕えなさいとお命じになりました。しかも、それらすべてにまさることは、あなた自身が人間に奉仕し、人間にいつかご自身を与えようと約束なされたことです。

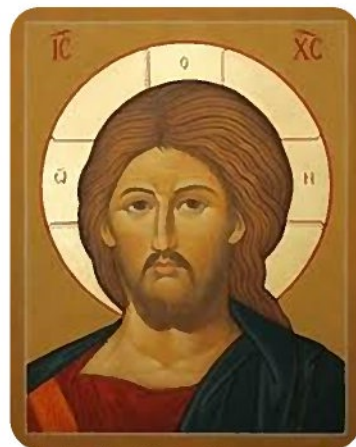
##### 4 あなたに仕えることができたなら！

この限りない恩恵に報いるには、私は何をすべきでしょうか？ああ生涯にわたって、私は日々あなたにお仕えしたい。せめて一日でも、あなたにふさわしい奉仕をしたい！まことにあなたは、すべての奉仕、すべてのほまれ、永遠の賛美にふさわしい方です。あなたは真実に私の主であり、私は貧しいしもべです。私は全力を尽くして、あなたに仕えるべきであり、いつまでも倦むことなく、あなたをたたえるべきです。私はそのように望み、そのように欲しています。あなたの恵みによって、私の不足を補ってください。

18-4月 復活された主のまなざし

主は復活された！

アレルヤ！



マグダラのマリアは弟子たちの所に行って、

「わたしは主を見ました」と弟子たちに告げた。

ヨハネ 20・18

復活されたキリストは 水辺に立った

今日 主とともに行こう

いのちのみ言葉で 愛と真理を伝えよう ～エウゲニウス・シェブラ～

死に打ち勝ち「復活されたキリスト」は「いのちの言葉」を人々に伝える使命をわたしたち一人ひとりに託されました…

今日もまた、わたしたちの平凡な生活の中で。

無駄な人生はありません。無駄な一日也没有。

自分で確認できなくても

復活されたキリストはすべての人と「いのち」を分かち合いたいのです。

復活されたキリストのうちに、「いのち」がみなぎっていることを信じます。

けれども、さらに深く信じさせてください。\*

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

\* 『いのちの道』写真と文 伊従 サンパウロ社

## 創造主への賛美（8）

くのり  
九里 彰

アシジの聖フランシスコは、「太陽の歌」で、いっさいのものを通して、神に賛美を捧げている。いっさいのものとは、太陽や月や星や風や空気や雲や空やあらゆる天候や火や大地のことで、それらは皆、人間の兄弟姉妹なのだとしている。それらを通して、神が与えてくださる恵みに感謝しているわけだが、それは単に人間にとってありがたいもの、快いものだけではない。それは、上に列挙された中から言えば、「あらゆる天候」という言葉でも表現されている。365日、晴れの日もあれば、曇りの日も、雨の日もある。時には暴風雨の日、嵐の日となることであろう。からっとした爽やかな日もあれば、じめじめとしたうっとうしい日もある。これらいっさいを通して、神に感謝をささげていくのである。

この点、ダニエルの歌でも「火と暑さは神を賛美し、冬の厳しさも神をたたえよ。霞と霧は神を賛美し、霜と寒さも神をたたえよ」とあり、共通している。人間にとって、不快なもの、嫌なもの、避けたいものも、皆ひっくるめて、恵みとして感謝していくのである。

聖フランシスコは、さらにこう続けている。

おお たたえられよ わが主  
おん身への 愛のために 赦し  
病と 苦しみを 耐え忍ぶ者によって  
幸いなるかな 平和の内にそれらを耐え忍ぶ者は  
彼らは おん身から 栄冠を授けられるであろうから

神への愛ゆえに人を赦すということは、言葉は美しいが、実践することは簡単ではない。病やあらゆる苦しみを耐え忍ぶことも、人間的には、不可能と思われることがしばしばではないだろうか。

これが可能となるには、「私が、私が」「俺が、俺が」と絶えず自己中心的となっている小さな自分に死んでいなくてはならない。またこれに重なるが、この世の価値観、考え方からすっかり自由になっていなくてはならない。そうでなければ、これらを通して、聖フランシスコのように、神を賛美することは、到底できないことだろう

神の愛の次元に昇り、そこからこの世界を、自分自身を見ない限り、永遠に優越感と劣等感、うらみつらみの自分中心の狭い世界からぬけ出すことはないと思われる。

（続く）



# 十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (123)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

## 「十字架の聖ヨハネとエコロジー」(2)

私はまた、他の同じように大きな挑戦、すなわち赤の挑戦や黄色人種の挑戦と共に人類の間に起きている、いわゆる「緑の挑戦」に対する解決策を、十字架の聖ヨハネによって提供するつもりはありません。

「エコロジーが引き起こしている（大きな諸問題に対するキリスト教的な再表明は）、実際のところ緊急の課題である。私たちは、その探求と再修正の時代にいる」と考える人がいます。彼は「おそらく、私たちが探しているより正確でより完全な問題提起を行なうためには」、少し待つことが必要だとしています\*。

ともあれ、エコロジーのテーマは、生物学、すなわち植物や農地や動物の領域ばかりでなく、さまざまな公けの分野にもたらされ、人間に関わる種々の学問分野、たとえば、社会学や倫理神学や霊性神学などの特別な見地から、これに近づくことが重要であるとされています。こうしてエコロジーの問題は、主に、学際間の問題となりつつあります。

このまとまりのないメモは、暫定的な性格のもので、より深くより完全な熟考の余地を残すものです。積極的な研究となるように私は望んでいます。それゆえ、もう少し先で「エコロジカルな文章のアンソロジーと告白のロンダ」と私が呼んでいるものは本質的なことと思われまます。十字架の聖ヨハネの著作から取られた文章と、きわめて間近で十字架のヨハネを知っていた人々の「言葉」だからです。

牧歌的で田園的でホラティウスの十字架の聖ヨハネのヴィジョンを再生することは簡単だったと思います。これらの側面に対するどの言及も、わざわざ探されたものではなく、発展させられるべき諸テーマの影響の中に見出されるものです。

\* ハビエル・ピカサ『エコロジカルな挑戦。エコロジーとヒューマニズム』、サラマンカ、1985



## 復活の主日 (ヨハネ20:1-9)

イースターの祭日は、イエスの死への勝利と、人類の永遠の生命への希望のお祝いの日です。この祭日は私たちに復活への希望を与え、共にいると約束してくださる生きていますキリストと私たちを結び続けます。

信仰がなければ、希望と期待をもたらすはずの現実には混乱を招くだけです。イエスの空の墓は、最も完全な勝利、最高の愛、そして最も強い現存のしるしです。マリア・マグダレナ、ペトロ、そしてヨハネは皆、空のお墓を見ます。彼らに与えられた大きな贈り物を完全に受け入れるのには、信仰が成長する時間が必要です。神の神秘に近づくには自分の信仰を燃やさなければなりません。希望と勇気をもたらすはずのものが躓きの石になるだけだからです。キリストへの真心からの惜しみない信仰だけが希望、信頼、そして安全な生活環境を可能にします。

この福音では走ることが不可欠な部分です。マリア・マグダレナは走り、ペトロは走り、そしてヨハネはペトロを追い抜きます。主への愛が急がせます。彼らがお墓で見たものは、走らないでも見る事ができたかもしれません。しかし急ぐことは主への愛のしるしです。キリストとキリストの復活の力を体験したいならば、急いで主との関係を持つ必要があります。私はキリストに出会うように努め、今ここですぐに私自身をキリストに与えるように努めなければなりません。「理想的」な瞬間を待つことはできません。今、現在の状況のもとでキリストに自分を与えないならば、そのうちに、ということは考えられません。

信仰は感覚の体験で始まり、そこで終わりではありません。ヨハネやペトロ、マリア・マグダレナは、最後には復活に対してゆるぎない信念を持ち、復活の使者となります。しかし、彼らはまず空のお墓を見て、衣を拾い上げる必要があります。彼らはまた、復活したキリストを見て、触れる必要があります。このこと全ては驚きと、考察、そしてその結果成長して信仰への実現をもたらします。神は私たちと同様に働かれます。最初に生きた体験があります。私たちが出会う人々や、直面する環境、発生する出来事などです。それら全ての意味しているものへの驚きや考察、そしてそれから信仰のゆっくりした夜明けがあります。

「キリストの復活は救いの歴史上で最も大きな出来事であることは明白であり、人類の歴史上でも、最も大きな出来事と言える。世界に明確な意味を与えているからである。全世界は十字架について思いめぐらすが、十字架は復活においてのみ救いへの十分な意義に達する。十字架と復活は世界の歴史の中心となる一つの過ぎ越しの神秘を構成している。それ故にイースターは教会の一番大きな祭典である。教会は毎年これを祝い新たにし、贖いの『ヤコブ原福音書』で始まる旧約聖書の全ての預言と、『時の充満』に向かって計画された全ての終末論的希望と期待の預言で充たす。これは神の王国が決定的に人間の歴史と救いの普遍的秩序に介入したときに実現した。」

(Sr. Paulina)

## 復活節第2主日

### 「トマスに示された神のいつくしみ」

「さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。」(ヨハネ 20.26)

この「八日目」の出来事の記憶から、教会は復活祭から八日間を特別な時として大切にお祝いしてきました。八日目は、七日間ある一週間を経た第一日目としての新しい創造の日であり、七日間で創造された「現世」を突き抜け、永遠の世界との交わりを得た日として象徴されています。

トマスは現世の知恵にたけた人であり、イエスを見て触れて確かめなければ決して信じようとはしませんでした。八日目に、そんな彼の前にイエスは姿を現したのです。

「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」トマスは言います。「わたしの主、わたしの神よ」(同 20.27-28)。

トマスはこの八日目に、永遠の方となったイエスに触れたのです。そして、信じない者から信じる者となり、現世的であった彼がイエスを介して永遠の命への希望を抱くことになりました。この世の命を生きるだけでなく、八日目の永遠の御国へとまなざしを向けながらこの世を旅する人へと変容したのです。彼はインドにまで福音を告げたと伝えられています。この世の命を惜しむことなく、永遠の御国のために完全燃焼していきました。

現代は、時代そのものがトマスではないでしょうか？高度に発達した科学技術は、七日間の世界をとことんまで究め尽くそうと躍起です。しかし、八日目のことにはほとんど関心を向けていません。しかし、ある人々は、この七日間の世界は八日目に由来しており、八日目に向かって時を刻んでいることに気づき始めています。しかし、これを科学で証明する日は来ないでしょう。八日目は科学の範疇を超えているからです。

このことを証明した出来事がイエスの復活です。イエスはこの世から父のもとへ超越し、この世を父へと結び合わせ、それが本当であることを復活によって証明したのです。「あなたがたに平和！」。広くのびやかな挨拶をもって、罪と裏切りを繰り返すこの世の弟子たちに向かって永遠の希望への信仰を持つようにと招いたのです。「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」と(同 20.26)。

信仰だけがこの世と来世、人間と神を結び合わせてくれます。それは果てしなく遠い関係のように見えますが、神の子が人間となり、イエスという、人間と神との仲介者の誕生と死と復活のおかげで、非常に近い関係性となりました。イエスを信じ、イエスの教えを聞き、イエスに学び、イエスに触れば(イエスが定めた洗礼や聖体を通して)、私たちは永遠の神との豊かな交わりを得、永遠の御国に向かって力強く旅を続けることができます。主イエス・キリストの復活を賛美しましょう！

(今泉健神父)

## 復活節第3主日（B） （ルカ24：35—48）

主の復活を告げる今日の福音の中で、怖れ慄いている弟子たちの真ん中に立ち、“あなたがたに平和があるように”と仰って、弟子たちを慰め励ましておられるイエスに出会います。イエスはしばしば弟子たちの処に来られ、共に留まり、導き、教え、弟子たちと食事をなさいます。パンを裂き、分け与え、食事をなさるとき、弟子たちはそこにイエスが本当に現存しておられることを体験します。福音は、週の初め、復活の日曜日に弟子たちの前に立たれたイエスを知らせています。

イエスの復活についての弟子たちの様々な対応。福音は信じきれない弟子たちの不安な心の状態を告げています。彼らは信じたいと思っていますが、確信がありません。復活されたキリストに出会って心からの喜びを体験しますが、疑いを完全に無にすることは出来ません。エンマウスから引き返してきた二人の弟子はイエスご自身と出会ったときの次第を詳しく話しますが、この二人でさえ、目の前におられるイエスになかなか気付くことができなかつたのです。主は辛抱強く気付くまで待つてくださる方です。わたしたちは誰でも不安定な心を持っています。信仰の力で全てを主に委ね、明るく寛大な心でいられるときと、信ずることが難しく、不安な下向きの思いで過ごしているときとがあります。キリストはどんなときにも共に在って、弱さを受け留め、よい方向に向け直してください。

わたしだ！信じなさい。弟子たちの前におられるキリストは亡霊ではありません。復活されたキリストはわたしの怖れを超越した真の現存です：キリストの恵みはわたしの弱さを強さに変え、罪や死を超越した力あるものです。キリストの現存に戸惑っている弟子たちに、感情を抑え、ただ信仰に生きるようお勧めになります。信仰のうちに主との親しい交わりを持つことは、わたしたちを真理であるキリストへと導きます。必要なことは、不信仰を棄て、キリストを信じきってキリストに信頼することです。

書かれていたこと：キリストの十字架は、聖書に“書かれていた”こと、全ての人の救いのために不可欠な、神が計画してくださっていたことです。主の十字架無しに主の復活は在り得ません。主の復活が無ければ、将来への希望も皆無です。日々の不本意の出来事の数々はキリストの十字架の反映です。それは心を清め主の復活の真の喜びへと導く手段として、主が用意してくださったものと言えるでしょう。

(Sr. Paulina)

## 復活節第4主日

(ヨハネ10：11－18)

今日のみことばは、イエスが「生まれつきの盲人」を癒し、その人がファリサイ派の人々のところに連れてゆかれ、外に追い出された後、イエスと出会った時の出来事です。イエスは、どの様な方であるのか、何のためこの世に来られたのかを、癒された人の前、一緒に居合わせたファリサイ派の前で語られました。

わたしは良い羊飼いだ…と、イエスは語られました。良い羊飼いはどんな人でしょう。羊のために命を捨てる人とイエスは語られます。羊である私たちのために命を捨てる人、これが人となられた「みことば」イエスの姿です。

もちろんこの言葉が語られた時には、イエスが十字架に架けられ亡くなるという事は、皆、思いも寄らなかったことでしょう。でもイエスの言葉はやがて現実になる訳です。人となられたまことの神、まことの人であるイエス・キリストが、私たちの救いのため、実際に十字架につけられたのです。

しかし亡くなっただけではなく、イエスは復活して命を再びお受けになられました。イエスの死と復活に結ばれて今を生きる私たちにとって、死が死で終わるものではないという大きな希望を私たちに与えてくれますね。

イエスは、良い羊飼いは自分の羊を知っており、羊も私を知っているとされます。私たちのことを知って下さっているのは嬉しいことですが、羊である私たちもイエスを知っている…それは単に知識として知っているだけではなく、イエスと心と心を通わせ、イエスが望んでおられる様に愛に生きる…私たちはそんな羊である必要がありますね。

ご復活の恵みの中を歩んでいる私たちですが、私たちがイエスにとっての「大切な羊」「わたしの羊」となることを願い、祈りながら、これからも私たちの歩みを進めてゆくことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

## 復活節第5主日 (B) (ヨハネ15：1－8)

今日の福音は、イエスが弟子たちに話された最後の講話です、その中で“わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。”(ヨハネ15：5)と仰っています。イエスを離れては、どの枝も実を結ぶことは出来ません。わたしたちがイエスの弟子となって豊かに実を結ぶなら、これによって、天の御父は栄光をお受けになるのです。

忘れがちな神のこと：日常生活の忙しさの中で神への思いは薄らいでいきます。またものごとが順調に運ぶときにも、残念ながら同様になりがちです。このように気付かぬうちにわたしたちはぶどうの木から離れ始めるのです。祈りの時間はそのよい表示です：ぶどうの木から離れ始めると、祈りの時間はどんどん短くなります。枝は枯れそうになり最後には祈りを忘れてしまうかもしれません。日々の生活のいろいろな活動を止める必要はありません、全てを神のために、神と共にすることです。

実を結ばぬ枝：もしわたしがぶどうの木であるキリストから離れてしまい、キリスト以外のものに自分のエネルギーをつぎ込んでしまったならどうなるでしょう。一つの実も結ぶことはできず、枝はだんだんしおれて行き、枯れ枝のように投げだされてしまいます。最後には全くの枯れ切った枝になって集められ、火に投げ込まれ、燃えてしまうでしょう。ぶどうの木に繋がってさえいたなら、多くの実を結ぶことができたのです！

豊かな実り：豊かな実りに恵まれ、この実りを持ってこの世に奉仕し、この世を全ての人の幸せの場に変えて行きたい！これこそわたしの使命、神がわたしに望んでおられる魅力的な意味あることです。ぶどうの木であるイエスに繋がっている者だけが神の国の永遠の実りを得ることができます。これは天の御父に栄光を帰する道！このような神との静かな語り、想いの交換、祈りの中で、わたしはもう魂を元気に奮い立たすものを感じるようになります。わたしの日々は周りの人々に役だつものとなるでしょう。主よ、どうか、常にぶどうの木であるあなたから離れることがありませんように！共にいてくださるあなたとの一致の絆を強めて下さい！主よ、あなたに対する信仰と愛が成長しますように！あなたはわたしの全てでいらっしやいます。

今日の福音はわたしたちとイエスの関係は、木とその枝の関係であると言っています。枝は親木を離れ独自に生きることは出来ません。わたしたちがキリストのうちに留まるなら、キリストはわたしたちの生涯、共にいると約束してくださっています。

(Sr. Paulina)

## 糸巻き棒からペンへ(30)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

自分の考えを伝えることによって、読者に影響を及ぼすことができるか、はたまた洞察の数々は彼女と共に減んでいくのかということがかかっていたのです。ここからこの人からあの人へと多くの人と親しい関わりを絶えず持つこととなったのです。つまり、自分の考えにより近い人々を常に探し求め、彼らに自分の著作を読み、手直しするように頼み、彼らが要求した場合には、自分の表現を修正することや、論考全体を書き直すことさえ受け入れたのです。検閲を通る必要があったので、絶えず彼らの考えに従い、彼らの訂正を受け入れたのです。彼女は、禁書となるよりは、一部削除された文書の方がよいと分かっていたのです。

検閲者の好意を得るために、自分が無害であることを示し、女性が劣るとの当時の常識を受け入れていることを告白しながら（すぐさま反対のことを言っていますが）、一つひとつ、自分の行為を正当化しています。「彼らは私にたくさんのことを要求されました、…結局、私よりずっとよく知っておられる人々の考えに私は従いました。糸つむぎに従事しなければならない時、書く仕事につかなければならないことは、とてもつらいことでした。…それについては、もっとよく分かっている人が書くべきであり、学問もなく、いろいろ間違えるかもしれない、弱く卑しい女である私ではないでしょう。…私は、もっと複雑な本が理解できない女性たちのために書いているのです。」と、同様の表現が続きます。

彼女のあらゆる努力にもかかわらず、彼女の著作の欄外には次のような検閲者の所見が見出されます。「これは、祈りの本を禁止している異端審問官を非難しているように思われる」。そして彼女の心が吐露したものを慌てて抹消したのです。エックス線の助けを借りずには、つい最近までそれを読むことができなかつたのです。今日なお、ある文章は、判読することができません。「私の靈魂の主よ、この世を歩かれる時、女性たちを忌み嫌わないでください。むしろ絶えず大きな憐れみをもって彼女たちを助け、彼女たちの中にあふれる愛と男性より深い信仰を見出されますように。…公にはあなたにとって何の価値もないことを、私たちが行ないませんように。また私たちが本当のことをあえて言わず、密かに泣いているということ、これほど正当な私たちの願いをお聞きにならないということがありませんように。主よ、そんなことは私は信じません。あなたの善良さと正義を信じます。あなたは正しい裁き手であり、この世の裁判官——彼らはアダムの息子たちであり、女性のような疑わしい徳を持っていない男たちですが——のようではありませんから。女であろうと、有徳で力強い靈魂を拒まれる理由はありません」(CE4,1)。

(続く)

# いのちの言葉 4月

はっきり言うておく。  
信じるものは永遠の命を得ている。

(ヨハネ 6・47)

群集は、パンを増やすイエスの奇跡を目のあたりにし、イエスが他にも何か与えてくれるのを期待しながらその後を追いか求めます。今月のみ言葉は、そんな群集に語りかけるイエスの言葉から取られています。

イエスは彼らの飢えを満たしたあとで、ご自分が「神の命そのものである愛」、永遠に終わることのない「眞の命」を世に与えるために御父から遣わされたものであると語ります。

パレスチナの道を歩みながらイエスは、食べ物や水、病の癒しや赦しを請う人々を避けることなく、出会うすべての人々の必要を満たし、一人ひとりに生きる希望をお与えになりました。

人々のために生きたイエスだからこそ、心を改め別な生き方をするように人々に勧め、耳を傾ける人には「私を信頼しなさい、私を信じなさい」と言うことがお出来になりました。

キアラ・ルービックは語っています。

「このみ言葉を通してイエスは、人間の心の奥深くにある『渴望』に答えて下さいます。人間は命のためにつくられたので、全力でそれを探し求めますが、それ(命)を他の人々や自然などの被造物の中に探し求めてしまうところに、大きな過ちがあります。これらの被造物には限界があり、いずれ過ぎ去るものなので、決して心の渴望を満たすことはできません。それで人間は落胆し、苦しみ、絶望してしまうのです。人間の渴きを癒せるのはイエスだけです。永遠に死ぬことのない命を私たちに与えることができるのはイエスだけです。イエスは『命そのもの』だからです」1と。

はっきり言うておく。信じるものは永遠の命を得ている。

キリスト者の信仰は、何よりもイエスとの個人的な体験の実りと言えるでしょう。イエスのご自分と同じ命に人間をあずからせようと、それだけをお望みなのです。

では、イエスを信じるとはどういうことでしょうか。不安を抱え自分の殻に閉じこもることでもなく、自分が思い描く将来の計画にのみ生きることでもないでしょう。

イエスを信じるとは、その手本に倣<sup>なら</sup>って、他の人の必要にいつも心を向けていることを意味するでしょう。貧困や病気の人、社会から排斥されている人々に手を差し伸べ、特に彼らに耳を傾け、必要なものを分かち、彼らを迎えるよう努め



ることでしょう。

こうした生き方を通して私たちも、神から頂いた賜物を他の人に伝えられるようになるでしょう。この私たちの歩みをかづけるために、イエスは、偉大な賜物を私たちに残して下さいました。それは「他の人を生かすために自らを与える愛の印」である「ご聖体」です。

はっきり言うておく。信じるものは永遠の命を得ている。

毎日を振り返ると、どれほど私たちは周りの人々に信頼を寄せながら生きていることでしょうか。子供たちの学校の先生、目的地まで乗せて行って下さるタクシーの運転手さん、病院のお医者さん等々、信頼なしには生活できません。信頼関係があればこそ、より相手を知ることができ、その人との関係も深まっています。

では、今月のみ言葉をどのように生きましょうか？キアラは、最も大切な存在としてイエスを選び、彼に従う決心をしましょう、と語っています。

そして、さらに続けて「もし、誰かと出会うなら『あなたの隣人を、自分のように愛しなさい』（マタイ 22・39 参照）を生き、苦しい時には『私に従いたい者は、自分の十字架を背負って私に従いなさい』（マタイ 16・24 参照）を思い出して実践してみましょう。

こうして、イエスのみ言葉に光が当てられ、彼ご自身が真理、力、愛と共に私たちの内に入ってこられるので、私たちの生活は、イエスと共に生き、すべてのことをイエスと共に行う生活へと変えられていくことでしょう。

そして、いつの日か私たちを待ち受けている肉体的な死でさえも、もはや恐ろしいものではなくなるでしょう。

なぜなら、イエスによって、私たちの内にはすでに『真の命』、死ぬことのない命が芽生えはじめているからです」2と。

レティツィア・マグリ

1.キアラ・ルービック、“La vera vita (真の命)” チッタノーバ誌、35, (1991), 14, p.32

2. 同上 p.33.

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

#### いのちの言葉の集い

関東 4月8日(日) 13:30~ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室  
(週日に、調布、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 4月8日(日) 14:00~ 瀬戸市みずの坂 サポートハウスゆうや  
4月14日(日) 14:00~ カトリック緑が丘教会

長崎 4月22日(日) 11:00~ カトリック浦上教会 要理教室

長崎マリアポリ としき: 5月4日(金・祝)~ 5月5日(土・祝)  
場所: 長崎カトリック・センター(浦上天主堂前)

連絡先: フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: [conil157ch1.wix.com/focolare-jp](http://conil157ch1.wix.com/focolare-jp)

近頃、夫と連れ立ってよく散歩します。

夫は歩行が最近とみに困難となり、少しばかりの道のりでも徒歩での用向きはかなわなくなりました。あてどのない気ままな散歩でも上がらない足を持ち上げ、引きずりしながら、ゆっくりゆっくりトボトボと歩を運びますが、身に着けている歩数計もカウントできないこともあるという歩きようです。

散歩というよりはリハビリというべきなのでしょうが、それでもささやかな楽しみであり、夫婦の今できる大事なことに思える老老の道行きです。

老老を広辞苑でひくと「非常に年をとったさま」とあります。また、広く言われている老老介護とは老人が老人を介護することをいうのでしょうか、人生100年ともいわれているこの現代に、私共が老老と言ってあてはまるのかどうかかわらないのですが、確かに老老介護の毎日と覚えます。

日頃の生活にあっては厳しいことも多々あり、ささいなことに小競り合いをして腹を立て合ったりはたびたびですが、しかし一步一步のこの歩みをどうにかして運び行くためには、また切切と寄り添ってひとつとなつて進むことであり、ここはもはや動かすことのできないかけがえのない結びつきを、否応なく互いが得ていることに思い至るのです。

この地に居住してもう半世紀にもなるので、人間と一緒に家の周辺の幾種類もの樹木は高々と立派になり、環境はよく整備されていて、それぞれの季節の美しさには十分に恵まれます。たくさん名も知らぬ鳥がいろいろやってきて、目を耳を楽ませ、お花見もお月見も紅葉狩りもすべてみな居ながらにしてという具合となります。老老の今になってこそ身を満たす、もったいないほどの天然自然の味わいを知ります。

夫との散歩はあまりにもゆっくり歩くからでしょうか、普段には見過ごしてしまっているものに目がとまり、心を通り過ぎてしまっていることに想いが止まります。雨上がりのしっとりした土の匂いに感動があり、苔むした石垣を這う小さな虫に顔を近づけて動きを追います。溝に残る雨水を、細いくちばしで無心に飲んでいる小さな鳥の羽根の鮮やかな色彩に見とれながら、その傍をそおと忍び足で通り抜けます。なぜかその木だけ、葉のすべてが虫の喰いあけた穴だらけになっているのが、アートのようにも見えて面白く、夫は毎回それをいつも一枚ちぎりにとってポケットにしまいます。散歩コースはいつもいつも同じなのです。

雪のちらつくような日さえあったのに、小さな小さな緑の新芽が日ごとにふくらんで現れ出てくるのを感嘆して愛でながら、開かれる希望もさることながら、この日までじっと身を潜めて待つというそのすこやかな強靱な力に思いがゆきます。それは夫婦の長い年月の歩みにも重なり、またいのちの営みの不思議を思うことともなって、深い感慨は足を止めさせます。

また時に、道すじで私共と同じような老夫婦に行き合ったりします。そうするとどちらからともなく、内容は十分でありながら形は半分くらいという会釈を交わしてすれ違うのですが、そのことがそこはかとなく満ちた気持ちになるのも僥倖といえるでしょう。子どもとこんにちはと微笑み合い、散歩中の犬に手を振り、老老の道行きは思いがけない心穏やかな幸せを授かるのです。

夫の足の運びも体の具合もこちらの身体に伝わります。思いやるとか察するという気持ち、精神というよりも、もっと肉体的というのでしょうか、私は夫の身体を自分の身体のように感じとっているようです。

信頼という途方もない力を与えられているのなら、日日は好日、日々に新たなりというのなら、老老の二人も常に新しく出会いなおし、出会い続けているのだということ、感謝の内に思い知ります。

気が付くとこの頃は聖書を開かなくなりました。

渴望にあえぎ、死に物狂いの激しさで頁を繰ったのも遠いとさえ思えます。

今生きるこの世界と聖書の世界の区別がぼやけました。よきおとずれは、救済史は、ひとえに私のためのものであらためて思い知ります。およそ福音でないものがあるのでしょうか。艱難辛苦があり、私たちの、そして私の罪がどれほど深くあろうとも、神さまが関係しないものがあるのでしょうか。主イエズスが共でないものがあるのでしょうか。

信望愛とは理想とか標語などではなく、この世界の、この日常の、一つ一つにまぎれもなく生きるものであることを、そして同時に、私たちはみなたとえ老老であっても、いつも神さまの小さな子どもであることを私の魂は確かに知って、そうあることを祈り願っているのです。

(上野毛教会信徒)

# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>  
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2018年3月18日

## 東チモールからのニュース

今年1月31日に、当座、“創立まもないテレジア的カルメル会”に所属することになった最後の宣教師が東チモールに到着しました。それは、この国生まれの、ポルトガルでの勉学を終えたばかりの跣足カルメル会士、ヌノ神父です。

私たちの宣教師たちは、司牧活動を継続しています。彼らは、目下、数日間、家族と共に過ごしている新しいメンバー、ヌノ神父が、自分の共同体に決定的に所属するよう望んでいます。

東チモール出身のヌノ神父は、教区の学校で教え、他の多くの仕事をしながら、神学生の霊的指導を担当しています。彼のために、イベリア管区からスペイン人のアントニオ・ゴンザレス神父が、神学校準備教育のための養成チームに霊的指導のアシスタントとして加わりました。彼は、霊性史と今年は霊的識別も教えています。彼はさらにシスターたちの4つの養成共同体のために、黙想会や養成指導を担当し、志願者、修練女、荘厳誓願前の修道女の指導にも関わっています。

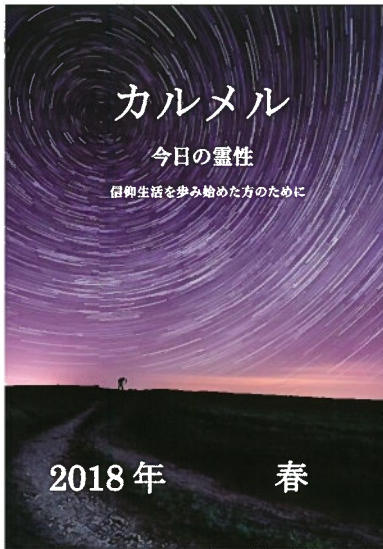
私たちはまた、二つの教会を援助しています。これらの教会には霊性や養成の奉仕を通してなされるべき仕事がたくさんあります。

ヌノ神父の到着で、私たちは召命を促進していく可能性について考え始めていますが、まだかなり不安定な状態が続いています。私たちは、創立したばかりの当地のカルメル会に協力するために、何人かのカルメル会士の心の中に、宣教への召出しを呼び覚ましてくださるよう、ブドウ園の主祈っています。

\*ポルトガルから帰って来たヌノ神父と、すでに神学校で教えているノエ神父は、別人です。



# カルメル誌 新刊案内



2017年 春号 No.368

《霊的生活への招き》

第二バチカン公会議後における信仰生活の文脈  
福田正起範

信仰生活(再)入門  
テレーズと共に歩む 幼子の道(1)―神は「愛」?  
片山はるひ

カルメル会の会則に見る  
アシェーシスと修道生活(1)  
九里彰

現代に響くルルドの霊性(1)  
―ルルドとカルメル会の絆  
須沢かおり

神の心を揺さぶり、神を動かす人間の心からの叫び  
森 一弘

風に吹かれて(15)―十字架の森  
原 造

キリストに伴われて季節を巡る(1)  
伊従信子

祈りを教えてください(1)  
―ルカ福音書による無力な者の祈り  
田畑邦治

見える世界の向こう側  
森 みさ

神が慈しまれた道(17)  
奥村一朗



特集号「三位一体の聖エリザベトの祈り」  
―現代人へのメッセージ―

エリザベトと共に生きる―永遠の光のもとで  
片山はるひ

続・歴史の中の三位一体のエリザベト  
大瀬高司

三位一体のエリザベトにおける苦しみと神秘  
九里彰

三位一体のエリザベトによる  
「聖書に基づくキリスト中心の生活」  
ポーリン・フェルナンデス

父と子と聖霊の唯一の神を信じる  
―三位一体のエリザベトと共に  
松田浩一

## ご案内

1冊 460円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会  
信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、600円【460円 (+送料 140円)】程度の献金を下記  
へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費 (年5冊：春夏秋冬  
+特集号 計 3,000円) を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会  
お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356



# 最新刊のご案内

## 生きる意味

### ●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

#### ——— 目次 ———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
  - 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
  - 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
  - 4 脱原発の倫理／久保文彦
  - 5 何のために働くのか／神谷秀樹
  - 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
  - 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
  - 8 関係の倫理学／清水正之
  - 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
  - 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
  - 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
  - 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禪
  - 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

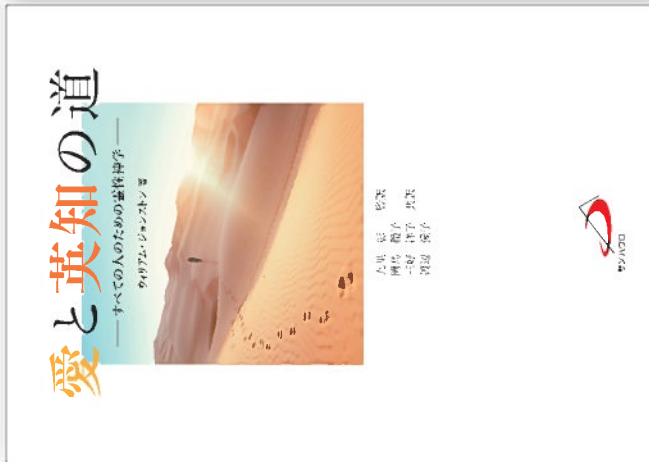
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

# 愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳  
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

## 第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

## 第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
- 第10章 英知と(空)

## 第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花知
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じる。また、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ  
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)



# カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

**Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum**

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

# 上野毛霊性センター(東京) (2018年4月～2019年3月)

## 黙想企画 \*\*上野毛聖テレジア修道院(黙想)\*\*

祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2018年 3月29日(木)夕食～4月1日(日)朝食<講話なし、各食事つき>

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2018年12月24日(月)～25日(火)朝食<講話なし、夕食なし>

聖書深読黙想会 大瀬高司神父

2018年 6月 2日(土)夕食～ 3日(日)午後4時

9月29日(土)夕食～30日(日)午後4時

12月 1日(土)夕食～ 2日(日)午後4時

日帰り黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

2018年 4月26日(木) 5月11日(金)

5月24日(木) 6月28日(木) 7月 6日(金) 7月26日(木)

10月26日(金) 11月8日(木) 11月30日(金) 12月13日(木)

2019年 1月11日(金) 1月24日(木) 2月 7日(木)

2月22日(金) 3月 7日(木) 3月22日(金)

\*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

\*申し込みは、3か月前より受付致します。

奉獻生活者のための黙想会 福田正範神父

2018年

8月 1日(水)17時～ 8月10日(金)朝

8月16日(木)17時～ 8月25日(土)朝

12月27日(木)17時～ 1月 5日(土)朝

奉獻生活者ならびに一般信徒のための黙想会

2018年

10月10日(水)17時～10月19日(金)朝 福田正範神父

青年黙想会(男女) 35歳位まで

2018年

4月21日(土)16時～22日(日)16時 カルメル会士

2019年

2月16日(土)16時～17日(日)16時 カルメル会士

召命黙想会(男女) 40歳位まで

2018年

11月23日(金)16時～25日(日)16時 カルメル会士

特別黙想会 Sr. 伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ)

2018年

11月16日(金)20時～18日(日)16時



- \* 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、カルメル会霊性センターニュース、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- \* こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- \* 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

## 宇治カルメル会 2018年度 黙想会案内

【一般のための黙想】・1泊2日（午後5時～午後4時）

- 終了 1月13日(土)～14日(日) ~~日常生活を次の世代のため~~ 中川博道神父  
5月26日(土)～27日(日) 「私の愛にとどまりなさい」(ヨハネ15・9) 九里彰神父  
7月14日(土)～15日(日) 「真の霊性を探す教会」 中川博道神父  
9月8日(土)～9日(日) 「人は新たに生まれなければ、  
神の国を見ることはできない」(ヨハネ3・3) 九里彰神父  
11月23日(金)～25日(日) ※2泊3日 「目覚めていなさい」 中川博道神父

【聖書深読黙想会】（午前10時～午後4時）

- 終了 2月3日(土) 中川博道神父  
4月21日(土) 九里彰神父  
5月12日(土) 中川博道神父  
7月7日(土) 九里彰神父  
9月1日(土) 中川博道神父  
11月17日(土) 中川博道神父

【水曜の黙想】（午前10時～午後4時）

- 終了 1月24日(水) ~~イエス・キリストと聖パウロ~~ 九里彰神父  
終了 2月14日(水) ~~四旬節の課題~~ 中川博道神父  
終了 3月14日(水) ~~復活に向かって~~ 中川博道神父  
中止 4月11日(水) ~~エマオに現れた復活したイエス~~ Sr.マイラ  
5月23日(水) 「神の母を祝う」 中川博道神父  
6月20日(水) 「まことの食べ物、まことの飲み物」 九里彰神父  
7月25日(水) 「預言者エリアとカルメル」 中川博道神父  
9月26日(水) 私を生まれ変わらせるユウカリスティア Sr.ロサ  
10月24日(水) 「ピンチの時は注意深く」 中川博道神父  
11月21日(水) 「永遠の命」 九里彰神父  
12月19日(水) 私たちの内に宿りたいインマヌエル Sr.ロサ

【四旬節の黙想】（午後5時～午後4時）

- 中止 3月3日(土)～4日(日) ~~過越しを生き抜くために~~ 中川博道神父

【ゴールデンウィーク黙想会】（午後5時～午前9時）

- 4月29日(日)～5月4日(金) 「日常の中に隠された宝」 中川博道神父

【聖テレーズの黙想】（午後5時～午後4時）

- 9月29日(土)～30日(日) 中川博道神父

【カルメル青年の集い】（午前10時～午後4時） 中川博道神父

- 終了 2月12日(月) 6月9日(土)  
4月14日(土) 11月23日(金)

**【青年の黙想会】** (午後5時～午後4時)

9月15日(土)～16日(日) 中川博道神父

**【一般のためのカルメル靈性】** (午後5時～午後4時)

10月13日(土)～14日(日) **イエスの聖テレジア** 中川博道神父

12月8日(土)～9日(日) **十字架の聖ヨハネにおける愛の変容** 九里彰神父

**【生活の中での靈的同伴】** (金曜午後8時〈夕食なし〉～土曜午後4時)

~~終了~~ 1月26日～27日

7月20日～21日

~~終了~~ 2月23日～24日

9月14日～15日

~~終了~~ 3月16日～17日

11月2日～3日

5月18日～19日

九里彰神父

**【待降節の黙想】** (午後5時～午後4時)

12月1日(土)～2日(日) **「人となられた神」** 九里彰神父

**【奉献生活者の黙想】** (午後5時～午前9時)

5月28日(月)～6月6日(水) 中川博道神父

8月5日(日)～14日(火) 九里彰神父

8月16日(木)～25日(土) 中川博道神父

11月6日(火)～15日(木) 九里彰神父

12月27日(木)～1月5日(土) 中川博道神父

**祭日のミサに参加するために**

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30(講話なし、各食事つき)

**【聖週間を祈る】** 聖木曜日から復活祭まで、どの曜日からでも参加可能です。

3月29日(木)～4月1日(日)

**【クリスマス】**

12月24日(日)～12月25日(月)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは、電話でも受付ておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間をお願い致します。受付が休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

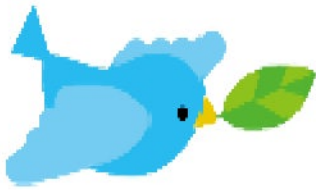
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

# 青年の集い in Uji

……立ち止まって、聴いてみる……



## 『問題性からの脱出』

……聖書の「救い」とは何だろうか？……

2018年4月14日 10:00~16:30

対象：高校生以上 35歳までの男女

参加費：500円

申し込み・連絡先：TEL0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail：[teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39 - 12

スタッフ：Fr.中川博道、Br. 原 造（カルメル会）

Sr.マイラ（カルメル宣教修道女会）

宇治カルメル会 幼きイエスの聖テレジア修道院（黙想）

# 宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願ひ

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしくお願ひいたします。

三井住友銀行  
上前津（カミマエヅ）支店  
普通口座：7205805  
名義：男子洗足カルメル修道会

郵貯銀行  
記号：10040  
口座番号：56845391  
名義：男子洗足カルメル修道会



男子洗足カルメル修道会本部  
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17  
Tel：052-671-1558 Fax：052-681-6445

## 金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

## 土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と  
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788



# 諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター  
真命山 霊性交流センター  
ノートルダム・ド・ヴィ  
サダナ瞑想  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院  
慈しみ深き会  
リーゼンフーバー神父キリスト教講座  
レデンプトリスチン鎌倉修道院

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご照会下さい。  
よろしくお願い致します。



カルメル霊性センターニュース

## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 心のいほり 内観黙想センター

---

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

### 2018年以降の予定

今後の内観は、希望者の日程や会場・修道院の都合を調整して行います。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターにお問い合わせください。

電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

(新住所)

◎〒662-0003 兵庫県西宮市鷺林寺町3-46 シト一会

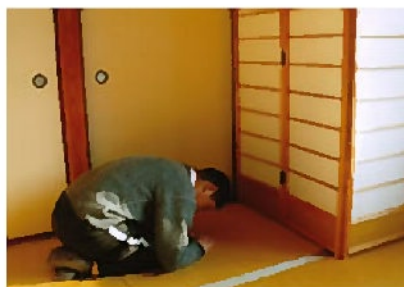
西宮の聖母修道院 司祭館

「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父

FAX 0798-71-5234 Eメール [fujinao1944@nifty.com](mailto:fujinao1944@nifty.com)

<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。



## 真命山 2018年 — 祈りの集いのご案内

毎月第2木曜日 (10:00～15:00)

指導者 フランコ神父

\*は聖ザベリオ宣教会ダニーロ・マルケット神父  
個人またはグループでの黙想会  
研修会も歓迎いたします(要予約)

- 1月11日 五旬節続唱「聖霊、来たり給へ」
- 2月 8日 聖ボナベンツラの祈り
- 3月 8日 聖アンセルモの祈り
- 4月12日 聖フランシスコ・ザビエルの祈り\*
- 5月10日 「サルベ・レジナ」
- 6月14日 聖心の連願
- 7月12日 ロヨラの聖イグナチオの祈り\*
- 8月 休み
- 9月13日 幼いイエズスの聖テレジアの祈り\*
- 10月11日 アッシジの聖フランシスコ作とされている「祈り」
- 11月 8日 シャールズ・デ・フーコーの祈り\*
- 12月13日 「テ・デウム」

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com



## 講話と祈りの集い



2018年4月14日(土)

午後2時～午後5時30分

担当 片山 はるひ

講話・祈り・質問・分かち合い

場 所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）

参加費：200円

幼きイエスのマリー・エウジェヌ神父著の  
『わたしたちの念祷』

（いつくしみセンター 本体1500円+税）を用いて  
講話を致しますが、本をお持ちでない方もご参加いただけます。

また、本は当日こちらでご購入いただけます。



\*\*\*\*\*

お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jesuits.or.jp/> ★申込み受付・開始日の8日前まで

コース	日時	指導者	開催場所	申込み
那須リピーターの会	4/27(金)17:30-30(月)14:00	Fr植栗	ベタニア修道女会 聖ヨゼフの家 (栃木県那須郡那須町大字豊原)	来間(くるま)裕美子 ※ Tel090-5325-2518 045-577-0740
ダイアリー	5/2(水)17:30-5/6(日)16:00	Fr植栗	上石神井無原罪聖母修道院	同上
入門B	5/13(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
自己を知る *1泊2日 ×2=合計 4日	5/19(土)9:30-20(日)17:00 5/26(土)9:30-27(日)17:00	Fr植栗	上石神井無原罪聖母修道院	同上
沖縄 サダナ I	6/1(金)9:00-3(日)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 (与那原町) Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720 Sr.名嘉山	
フォローアップ	6/10(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	来間(くるま)裕美子 ※
サダナ I	6/14(木)17:30-17(日)17:00	Fr植栗	カルメル修道会上野毛修道院 黙想の家 (世田谷区上野毛)	同上

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

### ◆サダナ I (入門A.B.C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

### ◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナ Iを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel : 077-579-7580  
Fax : 077-579-3804  
E-メール : karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2018年 5月 6日(日)～5月14日(月)
- ② 8月14日(火)～8月22日(水)
- ③ 10月7日(日)～10月15日(月)
- ④ 12月27日(木)～2019年1月4日(金)

B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2018年 2月 2日(金)～2月4日(日)
- ② 2月23日(金)～2月25日(日)
- ③ 3月16日(金)～3月18日(日)
- ④ 6月22日(金)～6月24日(日)
- ⑤ 7月13日(金)～7月15日(日)
- ⑥ 9月21日(金)～9月23日(日)
- ⑦ 11月16日(金)～11月18日(日)

C. 講話 黙想(奉獻生活者のため)

2018年 5月30日(水)～6月7日(木) 雨宮 慧師(東京教区)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。)

## 祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて  
—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室  
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

14：00～16：00

### 【2018年予定】

~~1月18日 第13の歌~~ 終了  
~~3月22日 第14及び15の歌（1～14）~~ 終了  
5月24日 第14及び15の歌（15～30）  
7月26日 第16の歌  
9月27日 第17の歌  
11月22日 第18の歌と第19の歌  
12月20日 第20及び21の歌（1～19）

### 【2019年予定】

1月24日 第22の歌  
3月21日 第23の歌と第24の歌

\*参加費無料（献金歓迎）

\*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）



※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

## 【復活祭のミサ】

4/ 1(日) 14時(入門・志願・洗礼式)  
上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂  
(定員80人)

## 【入門講座】

毎週金曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本  
テーマを取り扱います。

4/ 6 信仰の道— 人生の意味を問う

4/13 人生の道しるべ—

聖書に信仰を求める理性

4/20 聖書の人間像— 人間の現状と使命

4/27 旧約聖書の神体験— 聞くことと見ること

5/11 神認識の道— 理性と経験を通して

※8月全体、12/28、1/4は休み

## 【理解講座】

第1・3火曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
キリスト教の基礎知識を持っている方。  
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、  
キリスト教の中心的テーマを探求します。  
2年間のコース。

4/ 3 存在の超越と内在— 神理解への道

4/17 人間: 神の似姿— 理性・自由・信仰

5/ 1 救いの歴史— 時間における意義

※8月全体は休み

## 【土曜アカデミー】

下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時、岐部ホール4階404、  
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト  
教哲学・神学の相互関係を考察します。  
キリスト教思想史に関心を持っている方。  
プログラムの詳細は、別途配布。

2018年度のテーマ:

近代と現代におけるキリスト教と理性

4/14、4/28、5/12、5/26、6/16、6/30、7/14、  
9/1、9/8、9/29、10/20、10/27、11/17、11/24

## 【神学読書会】

第2・第4木曜日: 18時～20時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。

『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と  
神学に関する文章を読んで、話し合います。  
テキスト: 第Ⅲ巻「信仰と幸い—キリスト教の本質」  
どなたでも。

※祝日、8月全体、12/27は休み。

## 【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会マリア中聖堂

どなたでも。

※祝日。8月全体は休み。

## 【祈りの集い】

下記の土曜日 13時30分～16時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室

講話、黙想、ミサがあります

4/21、5/19、6/2、7/7、8/4、9/15、10/6、  
11/10、12/1

## 【ロザリオの祈り】

上記同日のミサに続いて 16時10分～16時50分  
クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂

## 【夕方のミサ】

下記の月曜日 18時～19時

上智大学内S.J.ハウス隣クルトゥルハイム1階右  
テレジア小聖堂

4/23、5/28、6/25、7/23、9/10、10/29、11/26、  
12/10



## 【坐禅会】

第1、第3月曜日：18時～20時

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋

2回坐り、間に講話。どなたでも。

※祝日、8月全体は休み

## 【通う霊操】

8/18(土)～8/26(日)毎日18時～20時45分

上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂

第1の講話・黙想18:00－、第の講話・黙想

19:00－、ミサ20:05－。随時、どなたでも。

## 【黙想会】

上石神井 1泊7000円

6/23(土)10時～6/24(日)14時

10/13(土)10時～10/14(日)14時

申込みの締切りは、初日の10日前

(予定) 関西：9/22(土)13時～9/23(日)15時

宝塚黙想の家 Tel.0797-84-7863 Sr.田中

## 【坐禅接心】

(予定) 5/3(祝)11時30分～5/5(祝)12時30分

8/10(金)11時30分～8/12(日)12時30分

秋川神冥窟 1泊2400円

申込締切：初日の7日前

## 【感謝のミサ】

7/28(土)14時～

上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂(定員80名)

## 【クリスマス会】

12/8(土)10時～13時

聖イグナチオ教会岐部ホール4階404

## 【クリスマスのミサ】

12/23(祝)14時～

上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂

## 【クリスマスの黙想】

12/25(火)18時50分～20時10分

聖イグナチオ教会マリア中聖堂

—上記の日程に変更がある場合は、

信徒会館1F掲示板でお知らせします。—

## 《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03-3263-4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

(上智大学名誉教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学S.J.ハウス

電話 03-3238-5124(直通)

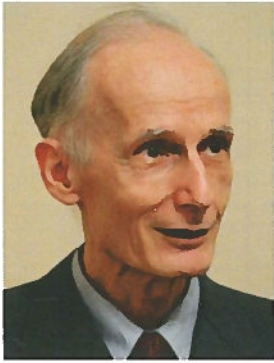
-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/)





# クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	<b>I 超越体験 一宗教論</b> 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	<b>II 真理と神秘 一聖書の黙想</b> 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	<b>III 信仰と幸い 一キリスト教の本質</b> 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	<b>IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論</b> 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓けて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	<b>V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践</b> 信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

## ●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学の人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館

〒113-0033 東京都文京区本郷1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

# 召命黙想会

日時：2018年4月7日(土) 9:30~16:00

開催地：レデンプトリスチン鎌倉修道院

(観想修道院)

指導司祭：中川 博道 神父 (カルメル会)

対象：カトリック女性信徒で奉獻生活を望んでいる  
25歳以上(年齢相談)の独身の方

参加費：1,000円(昼食代)

申込み：住所・氏名・年齢・電話番号・所属教会を  
記入の上、往復葉書でお申込みください。



〒248-0006

神奈川県鎌倉市小町 3-10-6

レデンプトリスチン鎌倉修道院

Tel. 0467-22-3020

# 『靈性センターニュース』

## \* 郵送お申込みのご案内 \*

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。  
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、  
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座（新設）  
へお振り込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184  
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、  
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。  
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

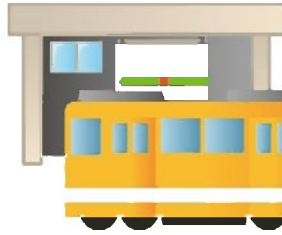
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」  
Tel:0774-32-7456  
Fax:0774-32-7457  
《変わりました》 [reisei@carmel-monastery.jp](mailto:reisei@carmel-monastery.jp)

### 「靈性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「靈性センターニュース」は、7月より、宇治靈性センター事務局で編集、  
印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担し  
ております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00910-6-333184  
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局  
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



## 編集後記

国家の舵取りをする政治家の世界でも利潤追求が第一の企業経営者の世界でも、誠実な心がすっかり見失われてしまったかのような昨今、心あたたまる小さな経験をした。

先日、山口カルメル会を訪れた時のことである。新幹線の新山口で降り、山口線（新幹線のホームからは一番遠いホームにある）で山口に行こうとした。キャリーバッグと鞆を両手に持ち、連絡通路からエレベーターでホームに降りた時、電車の扉が閉まり、ちょうど発車したところであった。「ああ、いっちゃった」と小さな声で呟き、列車を見送ったところ、何と十メートルも走らず、急停車したのである。「あれ?!」と思ったら、扉があいた。車掌さんがこちらに向かって、乗るように合図している。慌てて、荷物を引きづって、列車に飛び乗った。目の前で扉がしまったのが、再び開いて乗ることができたという経験は、長い人生、何度かあるが、こんなことは初めてであった。山口線はローカル線で、本数が少ないということもあったかもしれない。あたたかな思いやり、「村度」してくださった車掌さんに、山口駅で降りる時、御礼を言った。恥ずかしそうにしていた。

(P. 九里)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

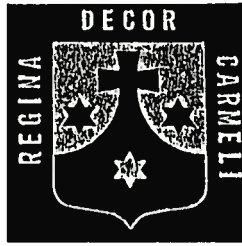
<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



『靈性センターニュース』お持ち帰りの方へ  
一冊 100 円程度の献金をお願い致します



### 製本／発送のご協力お願い

「靈性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

5月号の製本/発送日 **4月25日(水) 午前10時頃から**  
**宇治修道院信徒会館**

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

靈性センター事務局 ☎0774-32-7456